

「ESD推進ネットワーク北海道地域フォーラム2022」事例紹介

羅臼町幼小中高一貫教育で取り組む

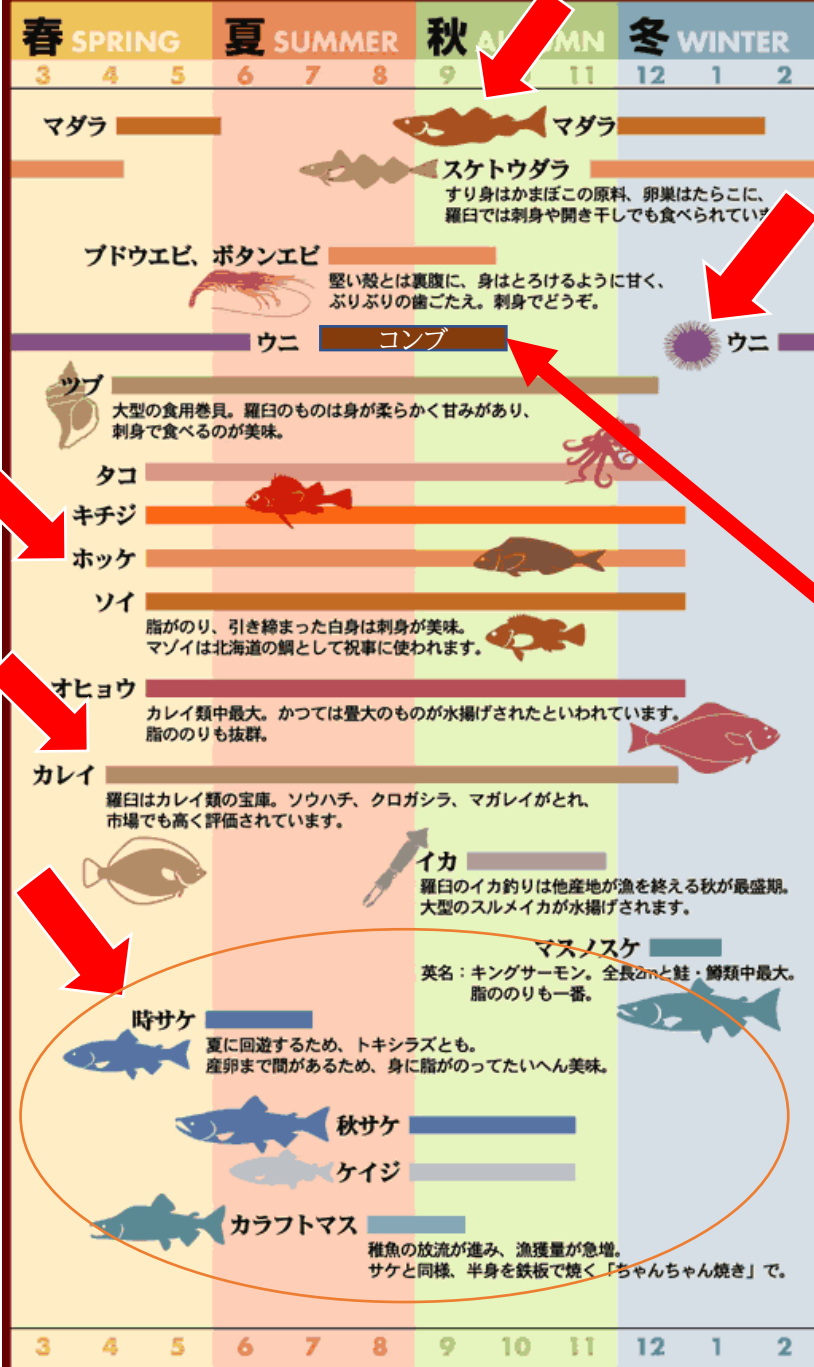
しれ ところ がく

「知床学＝ESD」

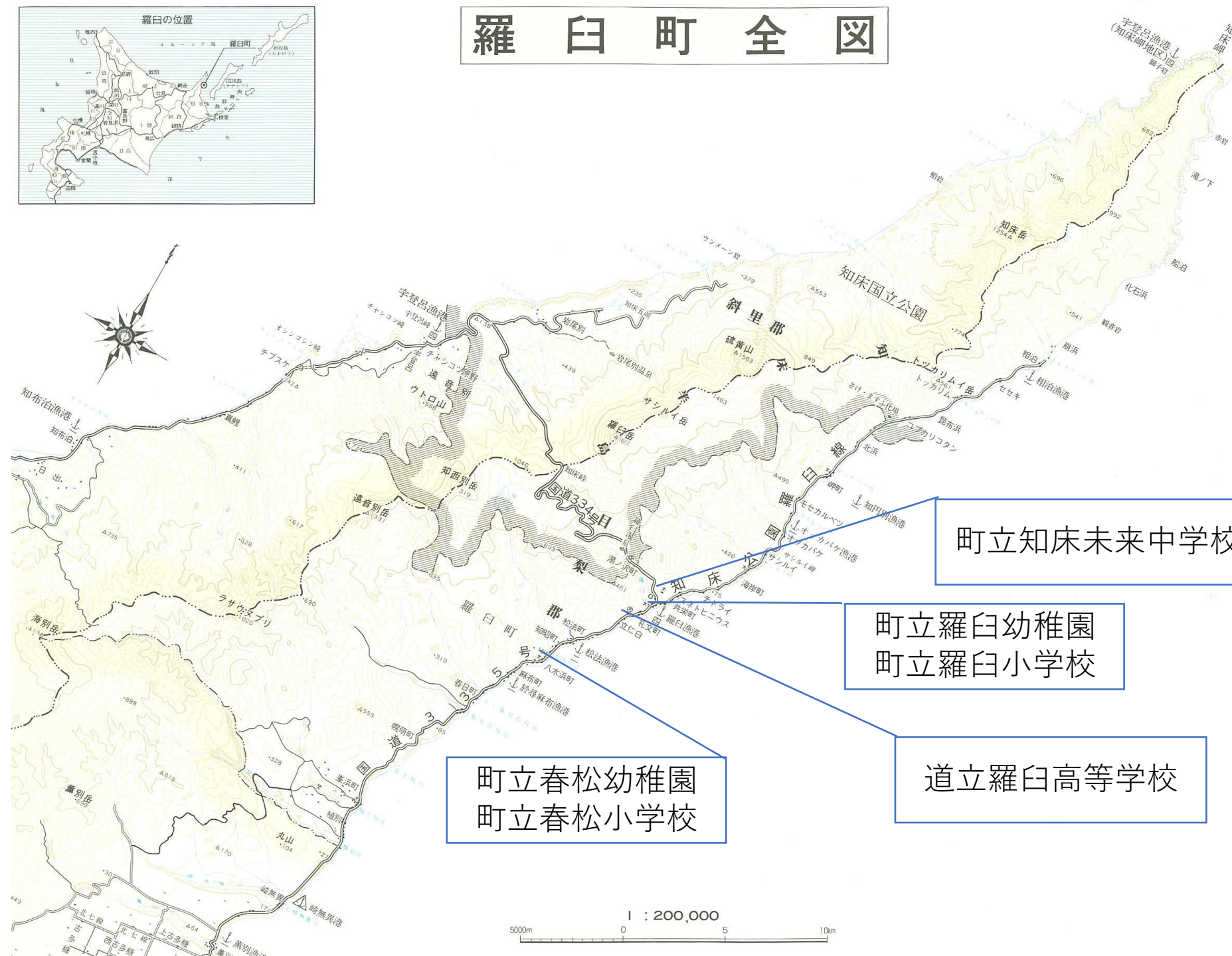
1. 知床学の誕生と変遷
2. 羅臼の教育～ESDとSDGs～
3. 各園・各校の取り組みの概要
4. 今後に向けて…（課題）

羅臼の魚ごよみ

出典：「羅臼産鮮」羅臼漁業協同組合



羅 臼 町 全 図



知床学の誕生と変遷

高校存続
の危機

中高一貫教育
導入の検討

中高一貫教育開始

推進の3つの柱

- * 学力向上
- * キャリア教育
- * 環境教育として
「知床学」がスタート

幼小中高一貫教育に拡大

ユネスコスクール加盟

海洋教育開始

海洋教育
パイオニア
スクールPJ

ESDを意識したカリキュラム

副読本発行

ESDによる地域創生への取り組み

2005

2007

2009

2012

2015

2018

2019

クマ
学習

知床世界自然遺産登録

生態系学習

知床ユネスコ協会設立

外来生物
学習

コンプ
学習

羅臼高校

単線カリキュラム

複線型カリキュラム
(自然環境科目群)



羅臼の教育

～羅臼の『ESD』と『SDGs』～

Education for Sustainable Development

持続可能な開発のための教育

私たちは、未来に向けて「ふるさと教育」を推進します



羅臼町教育委員会

2. 羅臼町が目指す ESD

羅臼町の現状

【課題】○漁獲量の減少
○人口減少の加速

【特色】○豊富な漁業資源
○世界自然遺産（野生動物との共存）
○知床学（海洋教育）

<基盤目標>

羅臼町学校教育基本理念

4 質の高い教育をみんなに
○基本理念
羅臼町では、「主体的に学び持続可能な羅臼を力強く切り開く町民の育成を目指す」理念の基、まちづくりを担う子ども達の育成を目指します。

ESD（持続可能な開発のための教育）を進め、ふるさとを愛し、世界自然遺産知床を未来に向かって守り育て創造する「羅臼の子ども」を育成します。

羅臼町第7期総合計画

17 パートナシップで目標を達成しよう
○基本方針（概略）
羅臼町の未来を町民とともに考えていくために、各世代との対話を通してお互いの立場を理解し、共に行動することで『絆』を深め、『郷土愛』を育み、知床らうすの素晴らしい未来を創造していくことを決意しました。



持続可能な羅臼のまちづくり

○クマ学習・生態系学習・外来種学習

- ・ 羅臼町内の子どもたちは幼稚園から高校生まで発達段階に応じて6回のクマ学習を経験し、ヒグマの行動や生態、不意な遭遇時の安全な対処法、ヒグマが生息していることの価値を学びます。
- ・ 世界遺産条約登録地である知床半島における生命の営みによって循環する物質の流れとその保全についての方策を体験的に学びます。
- ・ 外来生物についての知識を深めることで自然の構造への根本的な理解を深め自然を読み解く力（リテラシー）を養います。



【クマ学習】



【生態系学習】

○他地域交流学习・教員研修

- ・ 海洋教育サミットへの参加
- ・ 対馬高校とのweb交流、訪問
- ・ 羅臼高校と霧多布高校との相互訪問・交流
- ・ 羅臼町に赴任して初めてESDと出会う教員、さらにスキルアップを望む教員のための研修機会の推進
- ・ 児童生徒や教員の他地域（海外を含む）への派遣



【知床学教員研修】

【知床学】

世界自然遺産（生物の多様関係、野生生物人々の暮らし化）を通して、気持ちと主体決にむけて行力を育む学習

である知床の自然性、生態系の相互物との共存）や（産業、歴史、文ふるさとを愛する的に様々な課題解動する



○キャリア教育・

- ・ 観光パンフレットの配布（知床未来中学校）
- ・ 海岸清掃
- ・ 知床峠の清掃活動（羅臼高等学校知床横断遠足）

ボランティア活動



【観光パンフレット配布】



【海岸清掃】

○海洋教育・水産教室

- ・ 羅臼町の基幹産業である水産業と密接なつながりのある海についての学びを進め、海の生物、海の成り立ち、様々な海の現象について体験を重ねて知識を深めます。
- ・ 海についての課題研究と発表によってプレゼンテーション能力を高めます。



【ダイビング実習】



【昆布学習】



【市場見学】

○郷土の歴史

- ・ 知床半島の形成から先史時代、歴史時代を通した人々と知床半島との関わりについての歴史を学び、知床の気候風土とこの地で育まれた生活や文化について学びを深めます。



【郷土資料館見学】

3. 各幼稚園・学校のESD

羅臼町立羅臼幼稚園のESD

【教育目標】

心身ともに健やかで、心豊かでたくましく生きる子どもの育成



意識するSDGs開発目標	特色のある取り組み
	○クリーン作戦～海だけではなく、川などもきれいにしていく。 ○植樹体験～自然豊かにする気持ちを育む。
	○ゴミ拾い活動～園周辺や町をきれいにし、自分たちの住む環境を大切にしている気持ちを持つ。 ○クリーン作戦～小学生との交流時間を通して、クリーン作戦の意味を教え、自分たちで考えたり行動しながら主体性や感情体験を育む。
	○稚魚放流報告会～羅臼小学校2年生の生活科授業から稚魚放流の話聞き、興味を持つ。 ○海で遊ぼう～地域の海に入り、海岸を歩いたり友達と一緒に海遊びを楽しむ。 ○昆布を知ろう～羅臼小学校6年生の総合的な学習の時間を通して昆布について教えてもらう。 ○ルサ・フィールドハウス見学～羅臼の動物に興味を持つ。
	○ルサ・フィールドハウス見学～羅臼の動物に興味を持つ。

ESDの活動によってどんな子どもを目指すか

豊かな体験を通して自分らしさを発揮しながら、知床の自然に興味・関心を持ち、やり抜く意欲を培う。



羅臼町立春松幼稚園のESD

【教育目標】

心身ともに健やかで、心豊かで、たくましく生きる子どもの育成

○げんきな子 ○やさしい子 ○がんばる子

意識するSDGs開発目標	特色のある取り組み
	○前浜遊び ・前浜へ出向き、浜遊びをしながら海藻を拾ったり、石や流木で遊び、自分たちの遊び場として身近に感じる。 ・前浜のゴミ拾いから、身近な環境をきれいにする意識をもつ。 ○昆布番屋見学 ・地域の産業や自然について学び、羅臼昆布の素晴らしさを知り、昆布漁に興味をもつ。 ○昆布干し体験 ・昆布番屋見学を通して、自分たちも前浜から昆布を拾い干す作業を体験し、保護者と昆布を使った調理実習を行う。
	○クマ学習 ・身近に生息するクマについて、興味・関心をもち、生態や共存について考える。 ・身近な動植物に関心をもち、生命の尊さに気づき、やさしい気持ちで大切にしようという心育てる。 →ビジターセンター見学
	○前浜のゴミ拾いから得るもの ・前浜のゴミの流れてきた経緯や問題に気づき、どうしたら身近な環境がきれいになるかを幼児なりに考えて、問題意識をもつ。 ○外部関係機関との連携 (役場環境生活課の職員とのゴミ分別、保護者とゴミ拾い、地域との交流等) →いろいろな仕事があることや地域の人たちが協力し合って仕事を進めていることを知る。

ESDの活動によってどんな子どもを目指すか

幼児の心の中にある地元の価値を高める

- ・身近にある自然、場所を大切に、守ろうとする子ども
- ・好奇心や探求心をもち未来を想像し、問題を発見し解決する子ども
- ・郷土愛を深め、地域や人、もの、ことと関わり合える子ども



羅臼町立羅臼小学校のESD

【教育目標】

ふるさと羅臼を愛し、未来を担う、
人としての豊かな心と確かな力を身につけた児童の育成

意識するSDGs開発目標	特色のある取り組み
	○羅臼の仕事を知ろう～ふるさとの海の豊かさについて知るとともに、海に関わる仕事をする方達との交流を通じて、これからの自分の生き方を考えるきっかけとしていく。
	○こんぶ図鑑を作ろう～こんぶ図鑑を作成し地域に発信していく。 「羅臼こんぶ」を切り口に、それぞれの課題を設定し、体験・実験・取材・施設見学などをおして課題解決を行っていく。それぞれの課題は、①川の水質調査 ②こんぶの生産・流通 ③羅臼の魚 ④昆布の生態 の4グループとする。 ○羅臼の生きものを探ろう
	○クマ学習～ヒグマへの理解を深め、共存する価値について理解する。 羅臼町は昔からクマと共存しながら生活していることを知るとともに、川や沢づたいに海と山を行き来していることなどクマの生態について知る。 ○羅臼の生きものを探ろう

ESDの活動によってどんな子どもを目指すか

ふるさと羅臼を捉える学習を展開していくことで、ふるさとに対する誇りと愛着を育むとともに、自ら捉えた課題を主体的に解決していく資質・能力を育てていく。



ちぎょ
【サケの稚魚を放流する様子】



【インタビューをする様子】



【まちづくり提案会】

羅臼町立春松小学校のESD

【教育目標】

ふるさとに誇りをもち、進んでかかわる子
元気な子 考える子 ○○合う子

意識するSDGs開発目標	特色のある取り組み
	○よりよいまちづくり～身の回りの仕事や環境への関心を高める。 様々な職種の職業人を講師に招き仕事に関する講話や児童との対話を通して、身のまわりの仕事や環境への関心を高める学習を実施する。
	○めざせ生きものはかせ～前浜などを活動場所として、川や海に入り生きものを探したり、つかまえたりして自然の素晴らしさ、生命の大切さを学ぶ。 ○羅臼の魅力再発見～観光船クルーズ体験を通して、海を活用した観光産業について学ぶ活動を実施する。
	○めざせ生きものはかせ～裏山などを活動場所として、生きものを探したり、つかまえたりして自然の素晴らしさ、生命の大切さを学ぶ。 ○クマ学習～ヒグマへの理解を深め、共存する価値について理解する。 羅臼町は昔からクマと共存しながら生活していることを知るとともに、川や沢づたいに海と山を行き来していることなどクマの生態について知る。

ESDの活動によってどんな子どもを目指すか

多様な他者と児童が様々な体験を通じた学習を展開することにより、ふるさと羅臼をより深く理解し、郷土に対する誇りや愛着を持ち、さらには未来の羅臼の発展に貢献したいという心を育む。



羅臼町立知床未来中学校のESD

【教育目標】

- 1 自ら学び深く考える力
- 2 清らかで自他を愛する心
- 3 健やかでたくましい体

意識するSDGs開発目標	特色のある取り組み
 14 海の豊かさを守ろう	○クルージング～ホエールウォッチング（観光船に乗り、鯨、シャチ、イルカ、ミズナギドリなどを観察） ○羅臼食材を使った料理体験～地元の方に来ていただき、地元食材を使った調理体験。 ○市場見学～羅臼の海で獲れる魚の種類の多さを実感。 ○生態系学習～ルサ川での水生生物の採集・観察。 ○昆布学習～地元昆布漁師の方に来ていただき、昆布について学ぶ。
 15 陸の豊かさを守ろう	○クマ学習～羅臼町は昔からクマと共存しながら生活していることを知るとともに、川や沢づたいに海と山を行き来していることなどクマの生態について知る。 ○生態系学習～川に住む水生生物の採集・観察。
 17 パートナシップで目標を達成しよう	○羅臼町のPR活動～PRパンフレットを作成し、羅臼の地元企業からの試供品（昆布、塩、醤油など）を配布する。 ○羅臼町PR活動を通して ①プレゼン能力を高める。 ②コミュニケーション能力を高める。 ③仲間とともに協力しながら活動を行う。 ④羅臼町の良さを再発見する。 ⑤試供品を提供していただいた企業やPRパンフレットを渡した方からのお礼状などに、感謝の気持ちを持つ。

ESDの活動によってどんな子どもを目指すか

ふるさと羅臼の良さを再発見し、その自然を大切にしていくなかで郷土愛を育むとともに、ふるさと羅臼が抱えている諸問題を主体的に解決しようとする資質や能力を育てていく。



【教育目標】

- 1 自ら学ぶ意欲をもって、社会の変化に主体的に対応する生徒
- 2 奉仕の心をもって、たくましく行動する生徒
- 3 基本的な生活習慣を身に付け、社会規範を守る生徒
- 4 強固な意志と実行力をもって、心身を錬磨する生徒

意識するSDGs開発目標	特色のある取り組み
	○町の課題を意識した学び～水産業の低迷と人口減少に直面する町の課題について学び、未来に向かって課題に取り組む意識を高め行動する人物を育てます。
	○海洋生態系を通じて「海」を学ぶ～根室海峡を中心に海洋生態系の構造、海獣類や鯨類について学びます。また水産教室ではダイビング実習などを通して海とヒトの関係を考えるとともに漁業への理解を深めます。
	○知床の森の持続可能な利用のために野生動物との共存を学ぶ～知床の森を豊かで美しいままにいつまでもまもり続けるために、ヒグマとヒトの適切な距離を保ち科学的知見に基づく適正な管理のあり方を考えるクマ学習に取り組みます。

ESDの活動によってどんな子どもを目指すか

知床において、知床について学び、知床のために行動する人間性豊かな人物を社会に送り出します。
 知ることを学び、なすことを学び、ともに生きることを学びます。
 どこにいてもふるさとを意識し、人間としてより良く生きることを学びます。



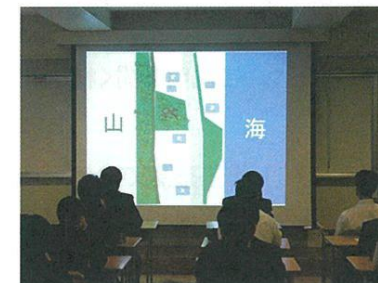
(1) 知床に関する生態系学習

ア 知床の歴史と自然

- ・各学年における総合的な探究の時間を活用し、地域の自然環境や生態系についての学習を実施しました。



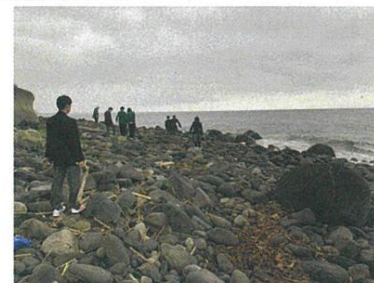
【知床岩尾別大地での巡検の様子】



【熊の生態と海洋との関係を学ぶ「クマ学習」の様子】

イ 学校設定科目「野外観察」

- ・第2学年の野外観察の時間の中で、海洋に投棄されたゴミの実態についての学習を実施しました。（学習成果は、「らうす高校生会議」において問題提起）



【海浜清掃の様子】



【海に投棄されていたゴミを調べている様子】

(2) 「水産教室」及び「創作料理プロジェクト」

ア 「水産教室」

- ・漁業後継者の育成を目的とした「水産教室」において、ロープワークやダイビングライセンスを取得するための講習、郷土料理実習などを実施しました。



【漁師さんからロープワークの指導を受けている様子】



【企業と連携したダイビング講習の様子】

潜水士やダイビングに関する資格を取得できます！

科目名	単元		R4年度	副担当	R4実施日	外部講師依頼先
知床学Ⅰ	1	0.知床概論について	倉内教諭			
1 学年		1 「知床学」とは何か				
21名		1-1 知床学の基本的な姿勢				
担当教諭		2 「知床学Ⅰ」について				
倉内 渚		2-1 授業と評価について				
1 単位		2-2 単元構成				
年間35h		2-3 学び方・授業について				
	2	3 ESDについて	倉内教諭			
		3-1 ESDとは				
		3-2 ESDの目標				
		3-3 ESDで育みたい力				
	4	5 知床の気候	羅臼漁業協同組合 指導部次長 泉 澤 幸 司 氏	倉内教諭	6月8日（水） 4校時 11：45～12:35	羅臼漁業協同組合 羅臼町船見町 TEL：0153-87-2131
		5-1 知床半島の地理的・気候的特徴				
		5-2 知床半島の気候				
		5-3 知床半島が特別に寒いわけ				
	5	5-4 流氷の影響・めぐみ	倉内教諭			
		6 知床の生態系と物質循環				
		6-1 生き物（生命）の特徴				
		6-2 生物（生命）による物質循環				
	6	6-3 生物多様性	倉内教諭			
		6-4 生物多様性がもたらす恵み				
		6-5 知床の地形と物質循環				
		6-6 生物の分類				
		6-7 生命のつながりと水の循環	倉内教諭			

9	8 知床半島の哺乳類	知床財団 保護管理係長 松 林 良 太 氏	倉内教諭	6月15日（水） 3～4校時 10:45～12:35	〒099-4356 斜里町字岩宇別531番地 公益財団法人 知床財団 TEL：0152-24-2114 羅臼：87-2828
	8-1 エゾシカ 8-1-1 エゾシカとはどんな動物か 分布・形態・生態・食性・繁殖				
10	8-1-2 エゾシカはなぜ増えたり減ったりしたか エゾシカに関する問い				
11	8-2 エゾヒグマ 8-2-1 ヒグマとはどんな動物か 分布・形態・生態・食性・繁殖	知床財団 保護管理係 八 木 議 大 氏	倉内教諭	9月7日(水) 3～4校時 10:45～12:35	〒099-4356 斜里町字岩宇別531番地 公益財団法人 知床財団 TEL：0152-24-2114 羅臼：87-2828
12	8-2-2 ヒグマの抱える問題点 8-2-3 ヒグマに関する問い				

21	10 知床の鳥類	計根別幼稚園長 (別海町野付半島ネイチャーセン ター長) 藤 井 薫 氏	倉内教諭	1月18日（水） 3～4校時 10:45～12:35	〒086-1197 中標津町丸山2丁目22番地 中標津町教育委員会 〒086-1109 中標津町西9条南8丁目3番地1 計根別幼稚園長 (別海町野付半島ネイチャーセンター長) TEL：090-6263-1852
	10-1 鳥とはどんな動物か 10-2 鳥の行動（渡り） 10-3 鳥の飛び方				
	10-4 知床の猛禽類 10-5 知床で観察できるワシ類 10-6 ワシの観察と識別				
23	10-4 ワシ学習事前指導	倉内他			
28	ワシ学習（ネイチャークルーズ船での観察）	倉内他		1月25日頃。 鳥類学習の後	
29	ワシ学習（ネイチャークルーズ船での観察）				
30	ワシ学習（ネイチャークルーズ船での観察）				
31	実習・観察・実験	☆			
32	実習・観察・実験	☆			
33	予備	倉内教諭			
34	予備	倉内教諭			
35	11 おわりに（まとめ）	倉内教諭			



「知床学」

「知床学」は
必要なのか？

・ ・ ・ 今後に向けて ・ ・ ・ （課題）

羅臼町として（他の推進拠点でも ・ ・ ・ か？）

①人事異動に影響されない「知床学（ふるさと教育）」の定着
（教育行政職員・学校教職員（管理職含む））

＊町（教委）としての覚悟

＊教職員の理解⇒研修機会の提供

ユネスコスクール（推進拠点）に共通と思われる課題

②ESDの視点に立った学習指導への理解とプログラムの開発

～学習指導で重視する能力・態度～

＊批判的に考える力

＊未来像を予測して計画を立てる力

＊多面的・総合的に考える力

＊コミュニケーション能力

＊他社と協力する力

＊つながりを尊重する態度

＊進んで参加する態度

行動変容（実践）への導き

・知識としての学びを行動（実践）へと変容させる導き

③学校と地域や行政（教育行政・一般行政）との協力のあり方（継続を維持する方策）

＊行政…個別の取り組みの総合化・ネットワーク化

＊地域…システムとしての協力体制

コディネート